

令和元年度 山口県立下関西高等学校(全日制)学校評価書 校長(山根 敬二)

1 学校教育目標

【教育目標】

校是「天下第一関」の下、高い知性・豊かな情操・強い意志・健やかな身体を育み、円満な人間性と社会性を備えた真に次代を担うにふさわしい人材の育成を目指す。

- ・知・徳・体のバランスの取れた人間形成をベースに据えつつ生徒一人ひとりの進路実現を目標に教育活動を推進する。
- ・3年間を見通した教育活動を推進するために、全教職員で協働して取り組んでいく体制の強化を図る。

【中・長期目標】

- ・単位制に基づく特色ある教育課程を編成し、多様化する生徒の進路選択に適切に対応することにより、生徒一人ひとりの進路実現に努める。
- ・学習習慣の確立による学力向上と授業研究・授業評価の推進による授業改善に努め、地域の期待に応え得る進学実績の向上を図る。
- ・積極的情報発信及び地域との連携による、開かれた学校づくりに努める。

2 本年度重点目標

- ① 学校運営：教職員の協働体制を強化し、学校力を高め、家庭及び地域・関係機関と連携の下、「信頼される学校」づくりを目指す。
- ② 学習指導：3年間を見通した系統的・組織的な学習指導により、更なる学力の向上を図る。
- ③ 生徒指導：自主・自律の校風を尊重しつつ、規範意識を高め、豊かな人間性を育てる。
- ④ 進路指導：3年間を見通した系統的・組織的な指導により希望進路の実現を図る。
- ⑤ 学科間連携：各学科それぞれの特長を活かし伸ばすとともに、学科間の連携により教育の質の向上を図る。

3 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

【総務】

- ・行事については、各係の役割を整理・明確化し、円滑な運営につなげる。
- ・校外研修については、昨年度の反省を活かして、業者との連絡を密にし、より満足度の高い研修にする。
- ・PTA役員と連携し、保護者がよりPTA活動に参加する方策を検討する。
- ・新メール配信システムへ全員を登録し、より円滑に運用をしていく。
- ・発信情報をしっかり吟味し、発信・更新回数を増加する。
- ・百周年記念事業実行委員会、同窓会などの関係機関との情報共有を含め、連携を密にする。
- ・校内体制に基づき、記念式典の円滑な準備・運営を行う。
- ・読書会の形を多様化し、参加者の裾野を広げるアイデアを出していく。

【教務】

- ・授業数確保のため、年間行事やその実施方法、授業の実施、クラス編成等の見直しを各分掌と連携して改善していく。
 - ・中学校から高校への滑らかな接続のため、中学生・保護者対象の学校説明会や、入学後のオリエンテーションでの説明を工夫・改善する。
 - ・生徒に興味・関心を持たせるような取組だけでなく、確かな学力を定着させるための計画を立てやすい学習環境を作る。
 - ・大学入試の変更を受けて、進路指導部と連携して1年生の初期指導を含め、計画的な指導に取り組む。
 - ・現行システムの円滑な運用に向けて、改善等に取り組み、教員の業務負担軽減のため、分掌としてフォローする体制を整えるとともに、令和2年度の統合型校務支援システムの導入に向けて円滑な移行ができるようにする。
 - ・変更される生徒指導要録作成に向けて、早期に対応を考える。
 - ・教育企画部と連携し、探究科やSSHでの活動を中心に、教材開発を推進する。
- (1年)
- ・学習状況を把握し、学習時間の不足や学習習慣の身に付いていない生徒は個人面談・学年等で指導する。
 - ・朝学の学習習慣を継続し、基礎・基本内容ができていない場合はやり直しや反復によって定着させる。
- (2年)
- ・授業中心の学習を継続していくとともに、早朝課外、土曜講座等の内容をよく検討し、各レベルに応じた支援を行っていきけるようにする。
 - ・課題についても各教科で調整し、負担が大きくなるようにしていく。
- (3年)
- ・あくまでも授業が中心であり、その充実を図ることが基本である。そのためにも引き続き朝学にきちんと取り組ませなければならない。
 - ・個別添削指導は効果が大きいので、できるだけ多くの生徒の学力を伸ばすよう補助する。

【生徒指導】

- ・頭髪・服装検査が形骸化せず、各学年との協力の下、共通理解を図り実施する。登校指導では教員から積極的に声をかけ、マナーの向上についても機会をとらえ全教員が指導する体制を作る。
 - ・いじめに関しては、未然防止・早期発見について学年・教育相談との連携を密に図るとともに、平素から生徒の活動に注意を払い、積極的にコミュニケーションを図る。また、携帯やスマホによる目に見えないいじめ等については、日頃から規範意識の向上を図る指導をする。
 - ・防犯・防災訓練等を実施し、安心して学校生活に取り組めるようにする。不審者に対しては、下関地区高等学校等生徒指導連絡協議会との連携を図り、生徒へ情報発信するとともに、自己防衛能力の向上に努める。
- (1年)
- ・学校行事等の特に役割分担や準備の段階から学年や正・副担任が生徒に関わり、生徒がより成長できるようにする。
 - ・学年や正・副担任が教育相談部や関係教員と密に連携を取り、問題点に対して早期の対応をして解決を図る。
- (2年)
- ・課題研究や発展探究など、生徒がグループで活動する場面が増えてきているが、そういう機会を利用して、コミュニケーション能力の育成を図っていく。
 - ・授業においても、アクティブラーニングなど、グループ活動や発表の機会が増えてきており、コミュニケーション能力の育成を図っていく。
- (3年)
- ・最上級生として、学校行事はもちろん、日常生活においても下級生を引っ張っていきける集団づくりを目指す。そのために、SHRやLHRの時間を活用したり、学年集会を開くなどして、リーダーシップの養成、コミュニケーション力の醸成を図る。

【進路指導】

- ・面談などの個別指導、校外学習への参加、進路情報発信については概ね順調であり、引き続き継続を図りたい。
- ・各個人の目標よりも一段上の進路実現が図れるよう、難関大・医学部医学科志望者向け講話の拡充や、難関大向け課外講座開講へ積極的に取り組むたい。
- ・NCA(総合的な学習/探究の時間)は、課題研究や小論文講座の拡充などをおして、生徒の表現力や思考力が高まるよう努めたい。
- ・それぞれの取組は概ね順調に行われているが、入試方法の多様化や大学入学共通テストの実施等を踏まえ、一人ひとりの進路希望に応じた指導ができるよう、学年団との連携をより緊密にしたい。
- ・過去の進路関連業務で蓄積されたデータは紙ベースの資料が多いため、PDF等に保存しなおすことで、業務の円滑な引継ぎを図りたい。
- ・教員の資質向上のための研修は引き続き継続するが、復命をレポートにまとめたり、職員会議等で復伝することで、教員間での情報共有徹底を図りたい。
- ・個々の思考力、判断力、表現力の育成が、将来の自分や社会にとってどのようなメリットをもたらすかを明確に意識付けることを主眼に置いた指導を行いたい。

【進路指導】

(1年)
・面談シート記入等によって志望校をより明確にし、その時点でやるべきことや先々のことを確認する。また、学年終礼・個人面談・進路諸行事・NCA等を通じて進路意識を高める。

(2年)
・面談などの個別指導において、各生徒に応じた進路指導をするために、家庭での学習時間の記録等をもっと活用していくようにする。
・模試の後の復習を義務化するなど自分の弱点補強に努める指導を充実させる。
・2年生をどう過ごすかが、進路実現に大きな影響を与えるということを、しっかり生徒に認識させる。

(3年)
・定期的な面談を実施することで、生徒の目標、意欲をくみ取り、1年を見通した取組への適切なアドバイスをする。
・生徒が取捨選択しながら自主的に学習に取り組めるよう、進路指導部と協力して早朝課外・土曜講座・添削指導などのアイテムを、各学力層に応じて用意していく。

【健康・安全】

・日々のHR活動や委員会活動・学校行事を通じて、安全・衛生意識の定着の向上を図る。
・清掃活動については、平成28年度から取り組んでいる全校一斉掃除を継続実施する。
・「割れ窓の理論」や「整理・整頓」の意味など、掃除の効力(意識付け)を学校全体に広げ積極的に清掃活動に励む雰囲気づくりを行う。
・感染予防対策での汚染物専用ボックスの利用マナーを継続指導する。
・健康診断結果の有効活用については、継続実施する。
・「ほけんだより」などの刊行物に併せ、生徒保健委員会活動の広報活動を充実させる。
・救急救命講習については、毎年実施する。(生徒は、1年次教科「保健」において全員受講。教職員は、最低2年に1度要受講。)
・協同推進体制の柱である体育大会運営に引き続き取り組む。
・校内施設開放については限られた設備・予算であるが、それらの有効活用を目指す。
・引き続き学校保健委員会などを通じ、生徒の健康状態や体力特性を保護者にも示し、改善・協力を仰ぐ。

【情報】

・現成績管理システムから新システムへの移行を円滑にしていく。
・情報セキュリティ意識の向上に向けた情報提供と随時必要な研修会等を行う。

【教育相談】

・支援が必要な生徒を早期発見するために、定期的に学年と会合を持ちたい。
・教育相談室で過ごす生徒の様子を、きめ細かく見守るための方策を考えたい。
・生徒実態調査などを活用して、学校不適応傾向を抱える生徒を割り出し、面談をして状況把握をしたい。
・支援が必要な生徒をどのようにしてSCにつなぐか多角的な工夫が必要である。
・生徒本人はもとより保護者への支援が重要な場合も多いので保護者との面談を積極的に進めていきたい。
・今まで以上により広範で現代的な人権課題に取り組みたい。
・人権意識が向上していることを数値的に表し検証する方法を考えたい。

【教育企画】

・探究科における教育活動が、課題解決力をより一層育むものとなるよう、SSH事業と関連を図りながら改善する。また、改善に当たっては、各分掌・教科と連携を取りながら、生徒の負担などにも配慮する。
・SSHの研究開発課題である「生徒に科学的課題構想力を育む」ため、「基礎探究」や「発展探究」の年間指導計画を改善する。
・本年度から始まる「教科探究」や「課題研究」については、昨年度作成した年間指導計画に基づいて実践する。
・「基礎探究」や「発展探究」の円滑な実施に努めるとともに、「教科探究」や「課題研究」については、担当者と連携を取りながら、実践を進める。
・SSH事業においては、アジア立命館太平洋大学等と新たに連携した取組を始めるなど、事業推進に向けた連携先を開拓する。
・「やまぐちサイエンスキャンプ」や「科学の甲子園山口県大会」の参加者については、生徒が積極的に参加するよう、引き続き周知に努める。
・定期的に「SSH・探究News」を作成し配布するとともに、本校ウェブページでの周知に努める。
・中学校に体験学習の実施について周知に努めるとともに、内容の充実を図る。
・アドバンスセミナーの内容の充実を図るとともに、生徒が負担する経費を節減するため、依頼する業者を見直す。
・学校説明会で、探究科の特色を中学校の生徒や保護者、教員に周知する。
・本校の取組をより一層周知するため、学校訪問などを積極的に受け入れる。

【業務改善】

・昨年度からスタートした学校運営協議会を年3回開催する。本校の取組や状況について情報共有し、諸課題について指導助言を受ける。
・教職員間での挨拶や積極的な声掛けを行い、職場の良好な雰囲気づくりに努める。
・校内研修等をとおして、綱紀保持意識の高揚を図りながら、各業務を実施する。
・担任と副担任、顧問と副顧問で常に情報交換をするなど、連携を密にしておく。役割分担を明確にし、協働的に運営していく。また、部活動支援員などの外部の指導員を積極的に活用していく。
・各分掌の仕事について、誰が担当してもわかるように資料や電子ファイルの整理を心掛け、次にスムーズに実施できるようにしておく。
・個人面談等を通じて、一人ひとりの教職員に対して、適度な休養や心身のリフレッシュを呼びかける。
・考査期間中のノー残業デーとして早く帰られるような雰囲気を作り、積極的に実践していく。また、代休が取得できるように、各担当で工夫していく。

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策（教育活動）	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
総務	学校行事の円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員で協働し、入学式、卒業式の円滑な準備と運営を行う。 校外研修の時期・内容を検討し、業者選定を円滑に行う。 	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> 各行事とも円滑に準備・運営ができた。今後も全教職員で協働し、よりスムーズな運営を実行していきたい。 校外研修は検討を重ね、来年度は海外・北海道スキー研修の2コースについて実施することになり、業者を決定した。 		4
	保護者との連携促進	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動の活性化を図る。 新聞委員と連携し、PTA新聞の紙面の充実を図る。 情報部と連携し、ホームページから積極的に情報発信を行う。 	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> 会長の下、様々な改善に取り組むとともに、会員が協力してバザーや進路情報交換会など各種PTA活動を推進した。 PTA新聞は委員の皆様と編集委員会を重ね新しい企画に取り組むなどしてきめ細かい紙面作りができた。 情報発信は情報部と協力して行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動を通じた学校との連携は十分であった。 総会での学校からの説明、進路懇談会は、非常に有意義である。生徒から保護者への情報の連携が十分でない面について、取組を強化して行って欲しい。 	4
	図書館の充実と読書指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動、図書当番など図書委員の主体性の養成と支援を行う。 計画的・系統的に図書の充実を図り、書籍の購入を円滑に進める。 読書会の開催や図書だよりの発行により、読書活動の啓発と普及を進める。 	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> 生徒各自が自らの気付きで主体的に効率的な掃除を行い、図書当番も責任持って果たした。 教職員のリクエストを中心に生徒が興味を抱く書籍や集団読書用図書を円滑に購入できた。 生徒が中心になって企画運営し活発な読書会になった。図書だよりの発行・図書カレンダーを定期的に発行した。 		4
	創立百周年記念事業の円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> 百周年記念事業実行委員会と連携し、記念式典の円滑な準備と運営を行う。 	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> 百周年記念事業実行委員会と連携し、校内準備委員会によって、記念式典の円滑な準備・運営ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> お疲れさまでした。素晴らしい式典でした。 	4
教務	授業時間の確保と適切な学習指導及び学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に向けて準備を行い、教科及び分掌等と連携しながら教育課程の作成に当たる。 同時展開授業等が増加し、時間変更が難しい状況ではあるが、時間割係が可能な範囲で授業変更に取り組み、授業時間の確保に努める。また、臨時休校や学校行事等に対しては、分掌・学年と連携を取り、授業時間の確保について対応する。 3学年の2学期末考査後の授業や1学年・2学年の学年末考査後の授業編成を分掌や学年と連携して、計画的かつ円滑に行うとともに授業の充実や時間の確保に努める。 中学校から高校への滑らかな接続のため、新入生に対するオリエンテーション等を計画的に実施する。 各学年と連携を取り、成績不振や学業に不安を抱える生徒に対してフォローしやすい環境を作る。 教室内の机、椅子、ロッカー等の校内の整備を計画的に進めていく。 教育の質の向上を図るため、研修等の案内を充実させ参加しやすい状況にしたり、情報や課題を共有して各教科、各学年の縦横の連携を図ったりする。 	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年秋の完成に向けて、3回の新教育課程検討委員会を設け、主な改訂方針を立てて検討を進めている。 3学年とも探究科が揃い、同時展開授業や行事の増加のため日課変更による授業時間の確保が非常に難しい状況であったが、時間割係が最善の努力をした。日課変更は本当に難しい状況にきており、振替授業等の見直しや工夫(探究科目・総合的な探究の時間・LHR等の担当者打合せ)が必要である。急な行事の変更による授業時間の確保については、各分掌・学年と連携を取り対応できた。 3年2学期末考査後の特編授業や1・2年の学年末考査後の授業計画について、各分掌・学年と連携して行うことができた。 新入生に対する学習オリエンテーションは普通科・探究科とも計画的に実施できた。 各学年が、考査前に補講を計画的に実施した。各HRでは、基礎学力の定着のため、朝学や日頃の授業の重要性を粘り強く指導した。また、特別支援教育推進教員を中心に、個別の支援計画も作成された。 新しい机・椅子の在庫がないため、事務室と相談し検討している。 研修係を中心に、中学校やその他の研究授業等の案内をしている。業務等のため参加が難しい状況であるが、可能な範囲で参加されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上に向けた十分な取組がなされていると評価する。 生徒・保護者向けのアンケート結果にあるように、課題が多くなり過ぎており、自主的な学習の時間が取りにくいなど、聞くことが多い。 一律に全ての教科ではなく、選択科目に重点を置いてよいと思う。 学習指導要領等が変更になる中で、取捨選択する必要があると考える。 	4
	新教育課程の編成に向けた研究・準備	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度入学生から適用される新教育課程に向けて、教科及び分掌間で連携を図り、探究科・普通科の教育活動にとってより良い教育課程の研究・協議を計画的に行い、編成準備に努める。 	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年秋の完成に向けて、3回の新教育課程検討委員会を設け、主な改訂方針を立てて検討を進めている。また、SSH関連科目に加え、普通科の「総合的な探究の時間」において、新たに探究活動(課題研究)が行われた。 		4
	組織的な学習指導体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣定着のため、低学年次から進路講話や面談を通じて「授業第一」「予習→授業→復習のサイクル定着」の重要性の周知徹底を図る。 各学力層に応じた課外授業や土曜講座の開講、個別指導の充実を図る。 教員の授業力を高めるため、外部研修への参加を促すとともに、教育企画部とも連携しながら校内における互見授業の充実を図る。 	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	4	<ul style="list-style-type: none"> 面談を通じて周知は徹底できている。今後は低学年次における進路講話を充実させたい。 上位層向けの課外や個別指導を多数新設し、学力層に応じた手立てを充実させることができた。 多くの教員が積極的に研修へ参加した。他校との互見授業については、SSHのユニットカリキュラムやリレー探究の取組とも連携しながら、更なる充実を図りたい。 		4
教務システムの円滑な運用及び統合型校務支援システムの導入に向けた環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 現行の教務システムについては、情報部・進路指導部と連携して、成績処理、出欠統計、指導要録作成及び調査書作成等の定着のため、マニュアルの作成や改善に取り組み、教科担当及び担任の業務を支援する。また、来年度導入される統合型校務支援システムへの移行を円滑に行い、マニュアル作成等の教員への説明準備を進める。 	4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。	3	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルの改善及び各学年に成績処理や指導要録作成を中心に行う教務担当者を配置することにより、各担任への業務の支援は以前と比べかなり進んだ。来年度導入される統合型校務支援システムについては、情報部を中心に現在準備が進められている。 		3	

教務	【1年】 効率的な学習計画による基本的な学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 折に触れて学習状況を確認し、学習習慣を確立するよう支援する。 基礎学力をつけるために、朝学を充実させ、小テストや週末課題などを実施する。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎日学習時間を記録させることで学習状況を把握した。面談等で記録内容を活用し、取組の改善を促すことができた。 8:30から朝学・朝読書に取り組み始めるように、注意喚起し継続している。下位層を伸ばすためにも小テストや週末課題などを実施し、学習事項の定着を確認することに努めた。今後も粘り強い指導をしていく必要がある。 	4	
	【2年】 授業中心の学習と課外等による学力の養成	<ul style="list-style-type: none"> 授業中心の学習を支援し、学力の向上を図る。 教科間での連絡を密にして、課題の量や提出日などを調整した上で出題する。 早朝課外、土曜講座・ASや補講等を学力差を考慮して実施する。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> 早朝課外・土曜講座等よりも、まずやるべきことは日々の朝学や授業中心の学習であることを学年終礼等で指導した。 各教科内では課題の量を調整したが、夏期・冬期課題においては、教科間ではなかなかできていなかった。 早朝課外は基礎・標準、土曜講座・ASは発展と区別しているが、早朝課外は学力差も考慮して英語・数学は2グループずつに分けて実施した。 	3	
	【3年】 大学受験を踏まえた授業内容の充実と課外等による確かな学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> 授業を中心に、早朝課外や放課後課外、土曜講座、朝学、添削指導等で大学入試に対応できる学力を身に付けられるようにする。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業、朝学、早朝・放課後課外、土曜講座に対して生徒は一生懸命取り組み、ある程度の学力を身に付けることができたと思う。 	4	
生徒指導	基本的生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> SHR、授業、全校終礼等とおして時間厳守の意識を徹底する。 教員の共通理解を図り、全校終礼で服装、頭髪等の指導を行う。 全教員による週1回の登校指導を実施し、挨拶の習慣を身に付ける。 HRや全校集会等あらゆる機会を通じてマナー意識の向上を図る。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校終礼等全校生徒が集まる場において、生徒会が主体的に時間厳守と集合時のマナーを呼び掛け、生徒同士で時間厳守やマナー等に関する意識向上に努めた。 全教員による服装・頭髪等の指導を行うことで、教員の共通理解を図り、生徒への徹底を行った。 今年度から登校指導を週1回に増やし、計画どおりに実施することによって基本的生活習慣の向上に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートには、生活習慣が十分できていないとのコメントがあるが、学校ですれ違う生徒(特に部活動、旭陵館利用者)は気持ちの良い挨拶ができています。 	4
	自他の生命を尊重する豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 年3回「いじめに関するアンケート調査」を実施し(教育相談部の生徒実態調査を含む)、実態把握に努め、学年・教育相談と連携し、未然防止・早期発見に努める。 年2回いじめ対策委員会を実施し、スクールカウンセラーやPTAなど外部との連携も強化する。 携帯電話、インターネットによる書き込み等の注意を喚起し、保護者・生徒向けのケイタイ安全教室を実施する。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いじめのアンケート調査」を実施し、何らかの兆候が見えた場合には、いじめ対策委員会を開き、担任、学年、教育相談などとも連携し、解決に向けて取り組んだ。 教育相談部の生徒実態調査等も利用し、学校全体で未然防止、早期発見に取り組む体制を取った。 新1年生に対しては、仮入学時に保護者と共に「ケータイ・スマホ安全教室」を予定どおり実施した。また機会をとらえてSNS等への書き込みに対する指導を行うとともに、生徒会を中心に生徒同士で注意喚起を行う場を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> SNSを利用した誹謗中傷は、面と向かって言えないことを平気で書けるので、スマホの利用は、より制限を設けるほうがよい。 	3
	危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 地震や不審者等を想定した防災避難訓練及び防犯避難訓練を実施する。 交通安全教室を実施し、交通マナーの向上に努める。 不審者情報などを速やかに生徒に知らせ、登下校時等の管理意識の向上を図るとともに、速やかな通報等その対応の指導を行う。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画どおり防犯訓練、ブラインドを含めた防災訓練を行い、緊急時における危機管理に対する意識の向上を図った。 近年増加している高校生の自転車事故を踏まえ、交通安全教室では自転車乗車時の注意点・マナーの向上について指導した。 不審者情報を速やかに生徒に伝え、注意喚起を行うとともに、対応についての指導を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 不審者情報を含め、危機管理対応は十分されている。 荒天時も早期に緊急メール配信やWEBページの緊急連絡がアップが行われている。 	4
	【1年】 自分を含む「個」を大切に心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等とおして、生徒が他の生徒や教員と人間関係を築き、自己を成長させるよう促す。 教育相談部や関係教員と連携を取りながら、1学年団で生徒の問題解決を図る。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事等とおして、協調性や積極性が身に付いた。クラスや部活動など様々な場面で自己の役割を認識し、個々に成長を遂げている。 配慮を要する生徒もいるため、関係教員間で情報共有を行うだけでなく、保護者との密な連携が求められる。SNS等インターネットへの書き込みによる問題もあり、今後も継続して注意喚起や指導をしていく必要がある。 	3	

生徒指導	<p>【2年】 コミュニケーション能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業や課題研究などにおいて、自分の意見を述べられるような雰囲気づくりに努める。 ・生徒との面談や学年団と関係教員との連携により各生徒の問題点を早めに把握する。 ・校外研修や探究活動等において、準備から終了までコミュニケーションを十分に取しながら進めていくように指導する。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習や課題研究等で自分が思っていることや意見を伝えることができる場が増えつつある。 ・個人面談や直接担任や副担任等に伝えてくる内容、教育相談部との面談等で各生徒の問題点を把握し、指導することができた。 ・校外研修においては、学校という枠から離れていることもあり、生徒同士や教員と生徒間で日頃以上に会話が弾んでいた。 	3	
	<p>【3年】 最上級生としての規範意識の向上とリーダーシップの発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は最上級生として下級生を引っ張っていける集団づくりを心掛ける。 ・学校行事だけでなく、日常生活や委員会活動・生徒会活動などでも積極的に動ける集団になるよう支援する。また、学年集会を開き、志を高く持たせたり、日常を振り返らせたりする機会を作る。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旭陵祭、体育祭ではリーダーシップを発揮できた。 ・学年集会等での集合の仕方など、次第に自覚的な行動が取れるようになった。 	4	
進路指導	<p>生徒一人ひとりの自己実現に向けた支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの適性や能力に応じた適切な目標設定ができるよう、面談などの個別指導を充実させる。 ・NCAのカリキュラムの見直しを図るとともに、キャリアセミナーや出前講義などを充実させ、大学観・職業観の確立を図る。 ・校外実施の職場体験学習や各種セミナーに、生徒を積極的に参加させる。 ・進路だよりや進路講演会により、進路指導の状況や大学受験に関する情報を保護者・生徒に分かりやすく伝える。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談などの個別指導は円滑に実施され、生徒の適切な目標設定の一助となっている。 ・職場体験学習は医療系を中心に多くの生徒が参加した。 ・NCAは各学年とも概ね円滑に運営できたが、更に生徒の進路意識が高められるよう、教材等に工夫を重ねたい。 ・適切な進路情報発信ができた。特に進路だよりと進路講演会は大変好評で、進路意識の高揚に大きく寄与した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒だけでなく保護者も最も興味のある分野なので、保護者への情報発信をより強化して欲しい。 ・進路情報交換会等、いろいろな取組は評価するが、全員が出席できないので工夫が必要である。 	4
	<p>3年間を見据えた継続的な進路指導体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会等や模試分析により、進路部と学年団が連携して指導に当たる体制を作る。 ・進路指導や教科指導などで、担任によって指導内容に個人差が出ないようにする。 ・多岐にわたる業務の精選を図るため、ICTの利活用促進を検討する。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会では、幅広い分野の情報共有を行うことにより、担任による指導の個人差を一定程度平準化することができた。 ・過去の業務で活用したデータをサーバー内で共有し、有効利用することにより、業務の円滑化を図ることができた。 	4	
	<p>思考力・判断力・表現力の育成に向けた学習指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力向上のため、予備校や大学での研修への参加を促し、復命を適宜行うことで、全教員が学習指導に関する情報を共有できるようにする。 ・各学力層に応じたきめ細やかな指導が行えるよう、各教科と連携を図る。 ・新たな教材の開発や活用を促し、教員や生徒が適宜利用できるようにする。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べ研修の復命件数は増加し、特に教科内における情報共有を図ることができた。 ・成績下位層と上位層に対する手立ては充実できた。今後は中位層に対する対策を進めたい。 ・アクティブラーニング活用に伴い多くの新たな授業展開の手法が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取組自体は十分であるが、個人の能力の差を埋めるより、特徴を捉えて特定の分野を伸ばし進学につなげる取組も必要と考える。 	3
	<p>【1年】 進路意識の早期確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談や、NCAでの学部・学科研究、大学セミナー・キャリアセミナーなどとおして進路に対する関心を高めるとともに、文理選択などの機会を利用して専門的な学習分野に関する知識を得る。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路に関する諸行事や学年全体の取組、文理・学科選択を主とした面談(個人・三者)をとおして、将来の進路について意識が高まった。進路講話や講演会などで、自分の適性を見極め、興味を持った分野の理解・研究を深める生徒もいた。 	3	
	<p>【2年】 進路実現に向けた早期の志望校決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談等を利用して生徒の進路意識を把握し、適切な支援を行う。 ・志望校を明確にさせ、模試受験後における振り返りの重要性を生徒に伝え、ノートに「やり直し」をさせる。 ・オープンキャンパス・東大見学会・出前講義等の行事をとおして、高い進路意識を持たせる。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路意識は持っていないもなかなか具体的な行動となって現れない生徒が見られる。 ・英語と数学を中心に考查や模試の「やり直し」ノートの提出を継続している。 ・九大オープンキャンパスや3校合同学習会等を通じて、他校の生徒の様子を知り、刺激を受けて高い進路意識を持つことができた。 	3	
	<p>【3年】 適切な志望校決定と合格に向けた具体的な取組の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模試を各自で分析し、自らの弱点を明確に把握させる。 ・面談等を利用して、志望校の科目確認と受験までの中長期的な見通しを立てさせ、夏休みまでに既習内容の復習や仕上げができるよう支援する。 ・2学期以降は大学入試センター試験と2次個別試験の内容へバランス良く対応させ、最後まで粘り強く取り組めるよう支援する。 ・各学力層に応じた学習方法改善や弱点の補強ができるよう、担任や教科担当との連携の充実を図る。 	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験に向けて自己の状況を把握し、自己の弱点を克服しようと努力した。 ・センター試験へ向けての取組は大変よく、全体的に良い結果を出せたように思う。 ・それぞれの学力層での頑張りが、センター試験では結果として出たと思う。 	3	

健康 安全	生徒と教職員との協同安全衛生管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、生徒と教職員がそれぞれの立場で、危険箇所の確認を行い、速やかに改善していく。 ・生徒と教職員が共に清掃活動に取り組むとともに、清掃活動と保健整備委員会が行う清掃状況点検活動とをリンクさせる。(継続事項:全員掃除) 生徒指導部と連携し、LHR計画で校外の美化美化(ピカピカ)作戦を計画・実施する。 ・生徒と教職員が協力し、清掃時のゴミ分別・私的なゴミの持ち帰りを徹底する。 ・感染予防対策として、ティッシュ専用収集ボックスを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・危険箇所等、速やかな対応ができた。 ・放課後の全員掃除、美化美化作戦を継続実施した。 ・今季からのHR等の暖房方法変更(ストーブ→エアコン)に伴い、感染予防対策への更なる注意喚起ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症は狭いエリアでの接触感染を防ぐための環境整備を検討していく必要があると思う。社会的にテレワークと同様の環境整備が進んでいる。 	3
	生徒と教職員との協同健康管理体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の結果を生徒や教職員の健康管理に役立てる。1学期3者面談時に、治療勧奨書を担任が保護者へ手渡す。定期的に治療状況を集計し、担任・生徒へ連絡し治療を促す。 ・「ほけんだより」を、生徒保健委員会活動と連携させる。 ・感染症・最新情報や学校の取組(委員会活動等を含む)を、「ほけんだより」やHPで適宜公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の結果を速やかに配付することで、治療率の向上へとつながった。 ・保健日より、学校保健委員会を活用して、学校保健活動の様子を周知することができた。 ・引き続き要配慮生徒の情報共有に努め、更なる協同健康管理体制の確立を目指したい。 		4
	生徒と教職員との協同生涯スポーツ推進体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト、クラスマッチ、体育大会等の体育的行事を他の分掌と連携し、実施種目の見直し等を含め、生徒が主体的に計画・実施・評価していけるよう教職員が支援していく。体力テスト等により生徒の特徴を把握し、学校生活での健康保持・増進の方法(運動)を実践できるよう教職員が支援していく。 ・生徒の活動が生涯スポーツに繋がるよう、施設用具等の利用方法も含め教職員が支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト・クラスマッチ・体育大会とも、新しい試みを実施できたが、各分掌・担当との「報・連・相」で不十分な所があったので改善したい。 ・昼休みの体育施設開放は、順調に実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスマッチはいつの時代も楽しく評判が良いので、体育の授業との組み合わせの幅を広げると良いと思う。楽しく学べる環境が望ましい。 	3
情報	情報発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急メール配信システムを円滑に運用する。また、全員登録を目指す。 ・ホームページ、ブログを活用して積極的に情報発信ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急メール配信システムの全家庭登録と、より適切な運用を目指している。 ・ホームページの記載情報の内容・質量について検討を進め、より発進力のあるものになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HP等による情報発信については、きりが無いとは思いますが、更なる充実を望む。 	4
	成績処理等にかかわるシステムの確立	<ul style="list-style-type: none"> ・成績管理システムをより円滑に活用できるよう、プログラムの修正・改善を随時行う。フォーマット改変に対する対応を進める。 ・マニュアル等の一層の充実を図り、成績管理システムを上手く活用できるよう、各業務の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じたプログラムの修正・改善を行って行くことができた。 ・マニュアルも更に充実し、より有効に活用できた。 		4
	校務情報の共有化と個人情報管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティを確保しつつ、使い易いシステム運用を進めていく。 ・情報セキュリティ意識の向上のために、随時必要な研修会や情報提供を続けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・校内LANの運用についてセキュリティを確保しつつ大きな支障も無く運用することができた。 ・情報の保護には細心の注意を払い、適宜適切な情報を提供できた。 		4
教育 相談	教員間及び保護者との相互理解の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年団や養護教諭との情報交換を密にし、支援が必要な生徒の早期発見、早期対応に努める。生徒実態調査や「配慮を要する生徒」のファイルの活用により、生徒情報の共有を図る。 ・定期的に教育相談部連絡会を行うことで、気になる生徒について意見交換をし、支援の方法を検討する。 ・特別支援教育の充実に努めるとともに、通級指導の環境整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする生徒に対する関係教員間の連携や情報共有は概ね良好であるが、更に円滑に進める工夫が求められる。 ・教育相談部連絡会で、効果的な支援の方法を検討した。 ・特別支援教育に関する知識が浸透してきており、意識が高揚しつつある。 		3
	スクールカウンセラーとの連携による教育相談体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒に、スクールカウンセラーとの面談を勧めるとともに、その生徒の関係教員へのコンサルティングを積極的に依頼する。 ・随時、スクールカウンセラーと事例検討を行い、教員のカウンセリングマインドの向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーの高度な見識と技量により、効果的な相談が遂行された。 ・生徒への対応について、随時、専門的な見地からのアドバイスを受けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が全てを背負うのではなく、大いに外部の専門家の力を借りることは、今後更に重要になると思われる。 	4
	豊かな人権感覚を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態や時代背景に応じた幅広い人権課題に対応する。 ・全ての教育活動をおとして、お互いに尊重し高め合う人間関係を構築するように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・人権啓発映画や弁護士の講演により、効果的な人権教育を行うことができた。 ・人権意識を持った、SNSの正しい使い方の指導が更に必要である。 		4

	<p>探究科における教育活動の充実と次年度に向けた授業改善の推進</p>	<p>・生徒に科学的課題構想力を育むため、1年次生を対象とした「基礎探究」、2年次生を対象とした「発展探究」及び3年次生を対象とした「教科探究」や「課題研究」の取組を系統的・計画的に実践する。</p> <p>・「基礎探究」「発展探究」については、前年度までの取組を踏まえ、改善を図るとともに、今年度から新たに取組む「教科探究」「課題研究」については、実施計画に基づいて実践するとともに、その結果を検証する。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>4</p> <p>・探究科の生徒に育みたい力を「課題を発見する力」「課題を解決する力」及び「成果を発表する力」の3つとし、意図的・計画的に指導することができた。</p> <p>1年次の「基礎探究」等においては、「課題を発見する力」と「成果を発表する力」の基礎を育むことができた。中でも、フラッシュトークやポスター発表など様々な発表形態を体験させることができた。</p> <p>2年次の「発展探究」等においては、年間を通じて取り組んだ課題研究により「課題を発見する力」をより一層向上させるとともに、「課題を解決する力」を育むことができた。</p> <p>・今年度から始まった「教科探究」と「課題研究」などにおいては、「発展探究」での研究成果を基にして、中学生を対象とした発表や学校外での発表に取り組むとともに、将来の進路に合わせて各教科・科目の学びを深めさせることができた。</p>	<p>・目標を明確にした取組が成果をもたらしている。</p> <p>・教職員の過度な負担にならないようにしてもらいたい。</p>	4
教育企画	<p>探究科の情報発信の推進</p>	<p>・本校ウェブページや西高ブログを活用し、探究科やSSHに係る取組を速報するとともに、紙媒体によるSSH・探究Newsを作成し、全校生徒をはじめ近隣の学校等にも配布する。</p> <p>・本校が取り組む探究活動の成果を広く周知するため、発展探究等の研究成果を発表する「探究学習生徒研究発表会(仮称)」を実施する。</p> <p>・学校説明会で探究科の特色を中学校の生徒、保護者及び教員に伝える。</p> <p>・探究科を紹介するリーフレットを充実させる。</p> <p>・ウェブページで生徒の活動や探究活動の様子を伝え、魅力を発信していく。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>4</p> <p>・本校ウェブページなどを活用して、探究科やSSHに関わる取組や魅力を周知することができた。また、1・2学期は、「SSH・探究News」を学期に3回発行することができた。なお、3学期は2回発行する予定である。</p> <p>・今年度から新たに実施する「探究学習生徒研究発表会」(3月14日実施予定)に向けては、滞りなく準備を進めているところである。</p> <p>・「学校説明会」において、探究科の特色を中学校の生徒、保護者及び教員に伝えるとともに、3年次生による口頭発表やポスター発表を行うことにより、探究活動をより具体的に周知することができた。</p> <p>・中学生が探究科の取組を直接知る機会となる「探究科体験学習」には、およそ80名の中学生が参加した。なお、国語、社会、数学、理科(物理・化学・生物)、家庭の合わせて7講座の体験講座を実施した。</p> <p>・例年どおり探究科を紹介するためのリーフレットを作成するとともに、より詳細な活動内容や探究科の魅力を周知するため、10ページからなる冊子を作成し「探究科体験学習」において配布した。</p> <p>「わくわく探究教室」において、小学生の保護者を対象とした説明会を行った。</p>	<p>・保護者のアンケートにもあったが、あまりにも探究科のみがクローズアップされ、普通科とのバランスを欠くことのないように希望する。</p>	4
	<p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進</p>	<p>・担当者間で意思疎通を図りながら、「基礎探究」や「発展探究」を円滑に実践するとともに、「教科探究」や「課題研究」の実践結果を検証する。</p> <p>・体験学習の実施に向けて、電話・電子メール・文書等で外部機関と緊密に連絡を取る。</p> <p>・アドバンスセミナーを円滑に実施するとともに、次年度に向け改善を検討する。</p> <p>・「基礎探究」「発展探究」「教科探究」及び「課題研究」の指導内容を学校全体に周知するため、実践マニュアルを作成するとともに、全職員に周知を図る。</p>	<p>4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。</p>	<p>4</p> <p>・探究科の学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「教科探究」や教科理数の「課題研究」において身に付けさせたい力をそれぞれ明確にし、つながりをもたせながら、3年間のカリキュラムを作り実践することができた。また、指導内容を教員間で共有するため、実施マニュアルを作成し、全教員に配布することができた。</p> <p>・学校外の施設を訪問して実施した体験学習については、外部機関と連絡を密に取りながら、進めることができた。特に今年度から新たに取り組んだ立命館アジア太平洋大学との連携では、生徒の主体的な学びを促すことができたものであったとともに、英語を用いてコミュニケーションを取る機会となるなど、良い取組であった。</p> <p>・アドバンスセミナーについては、連携先を北九州予備校に変更した。事前準備を十分に行い、円滑に実施することができた。</p> <p>・主体的、対話的で深い学びを実現するため、今年度から新たに普通科のNCA(総合的な探究の時間等)において、課題研究を実施することができた。これにより、取り組む時間に違いはあるものの、次期学習指導要領でも求められている探究活動に全ての生徒が取り組むことができた。</p> <p>本校がこれまで推進してきた探究活動の成果を広く普及するため、県内の高等学校等の教員を対象とした「教育研究会」を実施した。</p>		4

教育企画	先進的な理数教育の充実等、SSH事業に係る研究開発の推進	<ul style="list-style-type: none"> SSH事業の一つである「ユニットカリキュラム」や「リレー探究」等を実践し、普段の授業においても生徒に課題解決力の基礎を育む取組を推進する。 SSH事業においては、大学や企業など「ローカルアプリケーション」を活用した取組を充実させる。 「やまぐちサイエンス・キャンプ」や「科学の甲子園」等の理数教育に係る事業への参加者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 「ユニットカリキュラム」については、年間を通じて随時実施することができた。また、「リレー探究」については、1学期に探究科1年次生を対象としたものと、2学期に普通科理系コース2年次生を対象としたものを実施することができた。 SSH事業においては、九州工業大学や山口大学との連携を深めるとともに、下関市内の博物館や園芸センターと連携して研究開発を推進することができた。 「やまぐちサイエンス・キャンプ」には、過去最大となる14人の生徒が参加した。また、「科学の甲子園」には、例年どおり3チームが参加することができた。 理数教育における地域の先進校として、今年度から新たに小学生を対象とした「わくわく探究教室」を実施した。 	4
	学校の組織等	<ul style="list-style-type: none"> 日常の挨拶等を積極的に行い、職場の良好な人間関係づくりに努める。 担任と副担任、部活動の顧問と副顧問における仕事の割振を行い、情報共有を図りながら実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の挨拶やコミュニケーションは、分掌間、学年間、教科間共にスムーズにできている。下関地区の教職員の野球大会(秋)、駅伝大会(冬)にチームとして参加し、選手・応援団ともに交流ができ、良い雰囲気ができている。第65回下関駅伝では、教職員の部で初優勝を果たした。 担任と副担任の役割分担は、各学年で年度当初に明確にして、頼みやすいようにしてきた。部活動の主・副顧問は連携をして、助け合って実施してきた。いずれも、業務の精選や分担をしっかりと行い、担任や主顧問の負担を軽減していく必要がある。 	3
業務改善	網紀保持意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修等をととして網紀保持意識の高揚を図り、網紀保持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 県からの通知等により、タイミングを見て職員朝礼や職員会議の時間を割いて注意喚起を図った(年間17回実施:注意喚起11回、研修6回)。学校全体の直会等は、交通手段の調査を毎回実施して、注意喚起を図ってきた。 	3
	日常的な業務	<ul style="list-style-type: none"> 留守番電話を運用する(平日午後7時～午前7時20分、土曜・日曜日、原則として終日)。 文書作成マニュアルの活用促進により、文書事務の効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 留守番電話の運用により、時間設定外の連絡については対応することがなくなった。また、冬季休業中の学校閉庁の前後9日間が緊急対応の連絡が取れない状況になるため、学校用の携帯電話の番号を保護者にも知らせ、教頭が持つこととした。 文書作成マニュアルの活用により、起案文書の作成・手直し等の時間を少し短縮できた。 	3
	分掌間の連携と情報の共有	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌で効率的な業務遂行に努めるとともに、業務内容の見直しを促進し、必要に応じて簡素化を図る。分掌間の連携により、組織力の強化を図る。 学校のサーバーやグループウェア等を活用した教職員間の情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 各分掌で業務内容の精選、業務の引継ぎ等を意識して実施してきたが、更に進めていく必要がある。 職朝の連絡事項は、学校のサーバー内の掲示板に前日までに入力しているため、伝達がスムーズにできている。職員会議の内容が膨れてきているので、連絡事項は職朝の連絡に回すことも必要となる。 	3
勤務状況	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革をすすめ、残業時間を減らす。定期考査中及び長期休業中にノー残業を実施する。 長期休業中における時差出勤を積極的に活用する。 代休や年休の積極的取得を促し、取得率を上昇させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務時間記録から教員の平均残業時間の集計結果 H28 61h→H29 63h→H30 63h→H31 63h H28に比べて2h増えた。この4年間は様々な新規事業の立ち上げや、H31は百周年記念式典が挙行された。来年度以降、本校としては、今年度を基準として、業務時間の削減に取り組んでいきたい。 定期考査がある月や8月は、ノー残業や年休・代休等にしやすい雰囲気ができてきて、業務時間や残業時間は減少している。 長期休業中の時差出勤の活用 H30夏11人→H30冬8人→H31春7人→H31夏10人→H31冬12人で全体的には横ばい状態であるが、活用を促進していく。 夏季休業中に3日間の閉庁を実施している。厚生休暇や年休が取りやすくなり、年休消化率が少し上昇している。夏季休業中の自己研修は延べ5名、合計5日間を承認した。 生徒の下校は夏時間(3月～9月)は19時30分、冬時間(10月～2月)は19時下校完了は、ほぼ守られている。教員の最終退校時刻は、徹底できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革、時間管理は、意識の問題が一番大きい。毎年同じ事務を同じように運営すると、追加された業務の分時間が伸びる。 本当に各人が意識して工夫していかないと変わらない。 	3
業務時間の改善	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の下校時刻の徹底、教員の最終退校時刻を設定する。 職員会議の効率化及び時間短縮に努める。 生徒や学校及び教職員の実態に応じた適切な部活動運営に努める。 生徒の家庭学習時間の確保及び教員の働き方改革を踏まえた活動について、本校における部活動の在り方を学校全体で検討し、実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4: 十分な取組ができた。 3: 取組は概ねできた。 2: 取組が低調であった。 1: 全く取組めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 木曜日は6限で授業が終了のため、簡易掃除とし、15:35から職員会議を実施した。17:00を超える場合は、他日への振替で対応した。資料は事前に配布し、内容に目を通すことができるようにしている。 4月に部活動実施状況についてアンケートを実施した。7月と9月の2週間の練習時間や練習日の調査を実施した。それらを基に、本校における「部活動の在り方」について協議してまとめた。WEBページにもアップして周知した。 	<ul style="list-style-type: none"> 帰る雰囲気を作る、管理職から早帰りを促すことから脱して、各人が学校にできるだけいない時間を工夫して作る文化を構築する必要がある。 部活動については、生徒のためにも、ガイドラインに従って短時間で集中して行うことが必要である。教職員の意識改革を望む。 	3

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【総務】

- ・校外研修について、来年度は海外・北海道スキー研修の2コースについて実施することになり、業者を決定した。
- ・PTA会長の下、様々な改善に取り組むとともに、会員が協力してバザーや進路情報交換会など各種PTA活動を推進した。また、PTA新聞は委員の皆様と編集委員会を重ね新しい企画に取り組むなどしてきめ細かい紙面作りができた。
- ・図書だより・図書カレンダーを定期的に発行した。読書会は、生徒が中心になって企画運営し、活発な会になった。
- ・百周年記念事業実行委員会と連携し、校内準備委員会によって、記念式典の円滑な準備・運営ができた。

【教務】

- ・新教育課程について、令和2年度秋の完成に向けて3回の新教育課程検討委員会を設け、主な改訂方針を立てて検討を進めている。
- ・各学年が、考査前に補講を計画的に実施した。各HRでは、基礎学力の定着のため、朝学や日頃の授業の重要性を粘り強く指導した。また、特別支援教育推進教員を中心に、個別の支援計画も作成された。
- ・令和2年秋の完成に向けて、3回の新教育課程検討委員会を設け、主な改訂方針を立てて検討を進めている。
- ・上位層向けの課外や個別指導を多数新設し、学力層に応じた手立てを充実させることができた。
- ・アクティブ・ラーニングの活用に伴い多くの新たな授業展開の手法が見られた。
- ・英語と数学を中心に考査や模試の「やり直し」ノートの提出を継続している。

【生徒指導】

- ・全校終礼等全校生徒が集まる場において、生徒会が主体的に時間厳守と集合時のマナーを呼び掛け、生徒同士で時間厳守やマナー等に関する意識向上に努めた。
- ・今年度から登校指導を週1回に増やし、計画どおりに実施することによって基本的生活習慣の向上に努めた。
- ・「いじめのアンケート調査」を実施し、何らかの兆候が見えた場合には、いじめ対策委員会を開き、担任、学年、教育相談などとも連携し、解決に向けて取り組んだ。
- ・教育相談部の生徒実態調査等も利用し、学校全体で未然防止、早期発見に取り組む体制を取った。

【進路指導】

- ・面談などの個別指導は円滑に実施され、生徒の適切な目標設定の一助となっている。
- ・職場体験学習は医療系を中心に多くの生徒が参加した。
- ・NCA(総合的な探究の時間)は各学年とも概ね円滑に運営できたが、更に生徒の進路意識が高められるよう、教材等に工夫を重ねた。
- ・適切な進路情報発信ができた。特に進路だよりと進路講演会は大変好評で、進路意識の高揚に大きく寄与した。
- ・昨年に比べ研修の復命件数は増加し、特に教科内における情報共有を図ることができた。
- ・成績下位層と上位層に対する手立ては充実できた。今後は中位層に対する対策を進めたい。
- ・九大オープンキャンパスや3校合同学習会等を通じて、他校の生徒の様子を知り、刺激を受けて高い進路意識を持つことができた。

【健康安全】

- ・今季からのHR等の暖房方法変更(ストーブ→エアコン)に伴い、感染予防対策への更なる注意喚起ができた。
- ・健康診断の結果を速やかに配付することで、治療率の向上へとつながった。
- ・保健だより、学校保健委員会を活用して、学校保健活動の様子を周知することができた。

【情報】

- ・緊急メール配信システムの全家庭登録と、より適切な運用を目指している。
- ・ホームページの記載情報の内容・質・量について検討を進め、より発信力のあるものになった。
- ・状況に応じたプログラムの修正・改善を行っていくことができた。
- ・校内LANの運用についてセキュリティを確保しつつ大きな支障も無く運用することができた。
- ・情報の保護には細心の注意を払い、適宜適切な情報を提供できた。

【教育相談】

- ・支援を必要とする生徒に対する関係教員間の連携や情報共有は概ね良好であるが、更に円滑に進める工夫が求められる。
- ・教育相談部連絡会で、効果的な支援の方法を検討した。
- ・特別支援教育に関する知識が浸透してきており、意識が高揚しつつある。
- ・スクールカウンセラーの高度な見識と技量により、効果的な相談が遂行された。
- ・生徒への対応について、随時、専門的な見地からのアドバイスを受けた。

【教育企画】

- ・本校ウェブページなどを活用して、探究科やSSHに関わる取組や魅力を周知することができた。また、「SSH・探究News」を年間で8回発行した。
- ・例年どおり探究科を紹介するためのリーフレットを作成するとともに、より詳細な活動内容や探究科の魅力を周知するため、10ページからなる冊子を作成し、「探究科体験学習」において配布した。「わくわく探究教室」において、小学生の保護者を対象とした説明会を行った。
- ・探究科の学校設定科目である「基礎探究」「発展探究」「教科探究」や教科理数の「課題研究」において身に付けさせたい力をそれぞれ明確にし、つながりをもたせながら、3年間のカリキュラムを作り実践することができた。
- ・体験学習については、今年度から新たに取組んだ立命館アジア太平洋大学との連携では、英語を用いてコミュニケーションを取る機会となるなど、良い取組となった。
- ・主体的、対話的で深い学びを実現するため、今年度から新たに普通科のNCA(総合的な探究の時間等)において、課題研究を実施することができた。

【業務改善】

- (学校の組織)
 - ・各分掌で業務内容の精選、業務の引継ぎ等を意識して実施してきたが、更に進めていく必要がある。
- (日常的な業務)
 - ・文書作成マニュアルの活用により、起案文書の作成・手直し等の時間を少し短縮できた。
 - ・年度末に、教室の椅子を130脚更新し、古くなった椅子と取り換えた。また、トイレの老朽化等に係る対策として、3月に洋式トイレ3基を設置した。
 - ・4月に部活動実施状況についてアンケートを実施した。7月と9月の2週間の練習時間や練習日の調査を実施した。それらを基に、本校における「部活動の在り方」について協議してまとめた。WEBページにもアップして周知した。
- (働き方改革・勤務状況)
 - ・業務時間記録から教員の平均残業時間の集計結果 H28 61h → H29 63h → H30 63h → H31 63h H28に比べて2h増えた。この4年間は様々な新規事業の立ち上げや、H31は百周年記念式典が挙行された。来年度以降、本校としては、今年度を基準として、業務時間の削減に取り組んでいきたい。
 - ・定期考査がある月や8月は、ノー残業や年休・代休等にしやすい雰囲気が出てきて、業務時間や残業時間は減少している。
 - ・長期休業中の時差出勤の活用 H30夏11人→H30冬8人→H31春7人→H31夏10人→H31冬12人で全体的には横ばい状態であるが、活用を促進していく。

7 次年度への改善策

【総務】

・PTA役員の選出方法について、役員の方々から改善の要望が上がっていた。役員会でも検討され、新しい選抜方法を説明・実施し、円滑なPTA活動が図れるようにしていく。

【教務】

・3学年とも探究科が揃い、同時展開授業や行事の増加のため、日課変更は本当に難しい状況にきており、振替授業等の見直しや工夫（探究科目・総合的な探究の時間・LHR等の担当者打合せ）をして対応する。
・生徒・保護者向けのアンケート結果にあるように、課題が多くなり過ぎている傾向が続いている。各学年の担当教科で、更に削減の方向で調整を図るなど徹底していく。
・毎日の学習時間の記録を継続して行い、学習状況を把握する。学習時間の見直しを定期的に行わせていく。
・朝学やすきま時間の勉強など、有効に時間を利用することを意識させる。教科間で連携しながら課題の量を調整し、粘り強く指導する。

【生徒指導】

・配慮を要する生徒が多いため、教育相談部や生徒指導部など関係教員間で情報共有を行うだけでなく、保護者との密な連携が求められる。SNS等インターネットへの書き込みによる問題もあり、今後も継続して注意喚起や指導をしていく。
・HR活動や学校行事、部活動等とおして、協調性や積極性を身に付けるように支援する。担任や授業担当者が日頃の生徒の状況を把握し、良好な人間関係を築くことができるように促す。

【進路指導】

・大学観、職業観の確立のため、外部業者によるプレゼンテーションやディスカッションに関する講演の充実を図る。
・保護者に対する情報発信の手立てとして、「進路だより」だけでなく、本校WEBページ等を積極的に活用する。
・模試分析を充実させるため、生徒への配布も視野に分析方法を検討する。
・ポートフォリオの充実や調査書の様式変更に向け、情報部との連携を密にする。
・各学力層に向けた課外講座を設定したり、各教科と連携して「課題」の精選を図ったりすることで、時とニーズに合った指導が行えるようにする。
・教員研修(授業力向上)の機会を拡充(各教科1名→2名へ増)し、授業力のより一層の向上を図る。
・個人面談を実施し、個々の生徒の志望と適性や能力を把握する。また、希望する進路の情報収集をする力を身に付けさせ、短期的目標、中期的目標、長期的目標を立てさせる。

【健康安全】

・引き続き要配慮生徒の情報共有に努め、更なる協同健康管理体制の確立していく。
・体育の授業や部活動における怪我について、事前のミーティングや情報共有を行い、危機管理意識を高めて指導に当たる。怪我発生時の初動対応、医療機関への連絡、保護者の連絡、その後のケアについて、関係者と情報を共有しながら進めていくことを徹底する。

【情報】

・来年度導入される統合型校務支援システムは、情報部を中心に説明会を開くなどして、全体の理解を図り活用していく。
・緊急メール配信システムの全家庭登録と、より適切な運用を目指す。
・ホームページの記載情報の内容・質・量について検討を進め、より発信力のあるものにしていく。

【教育相談】

・支援が必要な生徒の情報を、誰でも必要なときに閲覧できる仕組みを作り、実施していく。
・教育相談室で過ごす生徒をきめ細かく見守る方策を考え、実践していく。
・特別支援教育の視点をすべての授業に反映できるように、校内での研修会を企画して啓蒙していく。
・支援が必要な生徒をスクールカウンセラーにつなぐ方法を手厚くしていく。
・関係教員とのコンサルティングの時間確保、方法を模索する。
・SNSを巡る問題など新しい人権課題に積極的に取り組んでいく。
・人権意識が向上していることを検証する方法を考え、プロセスを含めて評価していく。

【教育企画】

・来年度は探究科設置3年目となる。この2年間で発展探究の担当は、全教科体制で進めてきている。3年目でほぼ全教員が指導担当なることになるので、今までの指導方法、内容等を活かしていきたい。
・アクティブ・ラーニング、ICT機器の使い方、次世代型教育推進事業による研究授業など、教員の研修会を引き続き実施し、教員の指導力向上を図りたい。
・各企画について、前年度のアンケート結果に基づいて、内容を精選したり、ブラッシュアップを図ったりしたい。教員の過度の負担にならないように配慮していく。

【業務改善】

(学校の組織等)

・担任と副担任の役割分担は、各学年で年度当初に明確にして、頼みやすいようにする。部活動の主・副顧問も連携して助け合いながら実施していく。いずれも、業務の精選や分担をしっかりと行い、担任や主顧問の負担を軽減するように働きかけをしていく。

(日常的な業務)

・職朝の連絡事項は、学校のサーバー内の掲示板に前日までに入力しているので、伝達がスムーズにできている。職員会議の内容が膨れてきているので、連絡事項は職朝の連絡に回すことを徹底していく。
・部活動については、生徒のためにも、ガイドラインに従って、短時間で集中して行うことを学校全体として進めていく。

(働き方改革・勤務状況)

・生徒の下校時間は、夏時間(3月～9月)は19時30分、冬時間(10月～2月)は19時下校としているが、教員の最終退校時刻を生徒の最終下校時刻の30分後とすることを再確認し、学校全体として進めていく。
・管理職から早帰りを促すことから脱して、各人が学校にできるだけいない時間を工夫して作る文化を構築するような雰囲気を作り、実践していく。引き続き、教職員の意識改革を進める。